



学校だより

9月号



令和4年8月31日
横浜市立能見台南小学校

← 学校ホームページ
QRコード

宿題って

校長 榊原 一紀

夏休みが終わり、学校の授業が再開しました。

今年は、行動制限のない夏と言われましたが、新型コロナウイルスの感染対策を取りながらの生活が続いている上に、梅雨明けが早く夏も暑さが厳しく「猛暑日」の日数が今までの記録を大きく上回ったということです。夏を満喫する夏休みとはいかなかったかもしれません。しかし、子どもたちが大きな事故や怪我にあうことなく元気に過ごしてくれたことを嬉しく思います。

昔も今も夏休みが終わりに近づくと宿題の話題が取り上げられます。「7月中に終わらせていた」や「ぎりぎりまでためておいた」など聞きます。テレビでは、自由研究のヒントを伝えている番組も見られます。まるで夏の一大イベントです。ある番組の中で宿題の答えをスマホやタブレットに聞く児童がいることについて話題になっていました。「アレクサ、 3×5 は？」と声掛けをすると答えを教えてくれるといった内容です。このことには賛否両論あるのですが、私は活用する目的を考えているかどうかの方が重要だと思いました。

宿題の目的は学習の定着や深化です（普段の宿題の目的には、学習の習慣化も入ってきますが）。宿題を終わらせるためにスマホやタブレットを使うのは良くないです。それは、提出が目的になっているからです。でも、自分で解決したことの答え合わせや考えたのに分からない場合など、学習の定着や深化が目的となっていて使うのであれば、それは良い使い方だと思います。自分も子どものころ、数学の答えを見てから考えることがよくありました。解答が答えだけしか書いていない問題集だと、なぜその答えになるのか考えるときの方が勉強になったなあと思っています。

すごいスピードで技術革新が進み、驚くことがたくさんあります。今後も大きく変わっていくことでしょう。その中で大切なのは、「何のためにこれを行うのか」といった目的を見失わないことだと考えさせられたニュースでした。

9月から遠足や校外学習、そして宿泊体験学習などを予定しています。今後の社会情勢を見定め、換気や消毒、密になる状況を避けるなどのコロナ対策を模索しながら、子どもたちの学校生活を充実したものにしていきたいと考えています。ご心配なことがありましたらご相談ください。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。